

日農スミチオン乳剤

[MEP乳剤]

農林水産省登録 第5042号

有効成分 MEP...50.0%

性状 黄褐色可乳化油状液体

安全性：普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称） 危険物：4-2石-III 有効年限：4年 包装：500ml
×20、5ℓ×4 RACコード：殺虫[1B]

特長

- 殺虫スペクトルが広く 稲果樹果菜豆類樹木等の広範囲の害虫に効果を示す。

効果、薬害等に関する注意事項

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
- ボルドー液と混用する場合は散布直前に行い、できるだけ早く使用する。ただし、その他アルカリ性の強い農薬との混用はさける。
- 桃の初期散布（5～6月）には薬害のでることがあるので注意する。
- 稲（箱育苗）のイネシンガレセンチュウに使用する場合は下記の事項に注意する。
 - 1)発芽期～緑化期の使用は薬害を生ずるおそれがあるのでさける。
 - 2)軟弱徒長苗、ムレ苗などの場合は薬害を生じるおそれがあるので使用しない。
 - 3)土壌が極端に湿潤な場合は使用しない。
- イネシンガレセンチュウの本田における防除に使用する場合、散布適期は出穂の頃であるので時期を失しないように散布する。なお効果を高めるためには出穂始めとその1週間後の2回散布が望ましい。
- 水稻種子の吹き付け処理の場合は、専用の種子消毒機を使用し、乾燥種籾に均一に付着するよう所定薬液を吹き付けて乾燥する。なお処理後、長期間保存する場合には、薬液処理を行ったことを明記し、まちがいのないようにする。
- 本剤を本田の水稻に対して希釈倍数300倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用する。
- クワゾウムシに対しては成虫が桑樹に集まる4月下旬から6月頃に散布する。成虫の活動は長期間にわたるので発生状況に応じて追加散布する。
- かきのミノガ類に使用する場合は、幼虫が大きくなると効果が劣るので若令幼虫期に時期を失しないように散布する。
- 果樹のカメムシ類に対しては発生に応じて所定使用回数以内で繰返し散布する。
- 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないように注意する。
- 本剤を空中散布及び無人航空機による散布に使用する場合は次の注意を守る。
 - 1)水源池、飲料用水等に本剤が飛散流入しないように十分注意する。
 - 2)散布は各散布機種種の散布基準に従って実施する。
 - 3)少量散布（8倍液）の散布には、微量散布装置以外の散布器具は使用しない。
 - 4)無人航空機による散布にあっては散布機種種に適合した散布装置を使用する。
 - 5)散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行う。
 - 6)特定の農薬（混用可能が確認されているもの）を除いて原則として他の農薬との混用は行わない。
 - 7)散布終了後は次の事項を守る。

(a) 使用後の空の容器は放置せず、適切に処理する。

(b) 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃棄液は適切に処理する。

- 本剤を希釈倍数250倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を利用する。
- 梨の早生赤種、りんごの旭及びその近縁種には薬害のでることがあるので使用はさける。
- 宿根かすみそうに使用する場合、開花期には薬害を生じることがあるので、この時期の使用はさける。
- あぶらな科作物、さといも、ソルゴには薬害を生ずるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意してから散布する。
- ひのきに対しては個体によっては落葉、枯損にいたるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布する。
- ほうれんそうに使用する場合、幼苗期には薬害を生ずるおそれがあるので注意する。
- 牧草地に散布した場合は、散布直後の放牧はさける。
- まめ科牧草のアルファルファゾウムシに使用する場合は、幼虫発生期～成虫発生初期に散布する。なお、防除適期等については病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- かんぎつのミカンツボミタマバエに使用する場合は、成虫の発生初期に樹冠部及び主幹部を中心とした樹の内部、樹幹下の地表面に散布するのが効果的である。
- 芝のコガネムシ類幼虫に使用する場合は、散布液が土壤中に十分しみ込むようジョロ口等で1㎡当り3ℓを散布する。
- フラーバラゾウムシ及びミカンキジラミに使用する場合は、植物防疫（事務所）、病虫害防除所等関係機関の指導のもとに実施する。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意する。
 - 1)ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しない。
 - 2)受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさける。
 - 3)関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努める。
- 蚕に対して影響があるので、給桑予定している桑葉にかからないようにする。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、普及指導センター、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意事項

- 誤飲などのないよう注意する。
- 本剤の解毒剤としては硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤が有効であると報告されている。
- 眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意する。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。
- 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン長袖の作業衣などを着用する。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼うがいをするとともに衣服を交換する。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。

水産動植物に対する注意事項

- 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しない。本剤を使用した苗は養魚田に移植しない。
- 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- 空中散布または無人航空機による散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意する。
- 散布後は水管理に注意する。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。
- 浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

適用内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数	
稲	ニカメイチュウ第1世代 イネハモグリバエ	1000~2000倍	60~150ℓ /10a	収穫21日前まで	2回以内	散布	3回以内 (種もみへの処理は1回以内、育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)	
	ニカメイチュウ第2世代 サンカメイチュウ第3世代	800~1000倍						
	ヒメトビウンカ カメムシ類 イネツトムシ イネシンガレセンチュウ イネドロオイムシ アブラムシ類 アワヨトウ	1000倍						
	イネヒメハモグリバエ	2500倍						
	フタオビコヤガ	2000~4000倍						
	イネシンガレセンチュウ	1000倍						—
		100倍	専用の種子消毒機を用いて乾燥種籾重量の3%の量の希釈液を種籾に吹付け処理又は塗沫処理					
	ニカメイチュウ ヒメトビウンカ カメムシ類 イネハモグリバエ イネヒメハモグリバエ フタオビコヤガ イネツトムシ	30倍	3ℓ/10a	収穫21日前まで	2回以内	空中散布		
		ニカメイチュウ カメムシ類	8倍			800mℓ/10a		無人航空機による散布
			300倍			25ℓ/10a		散布
稲 (箱育苗)	イネシンガレセンチュウ	1000倍	育苗箱 (60×30×3cm、 使用土壌約5ℓ)1 箱当り500mℓ	硬化期~移植 前日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。		
麦類 (大麦、小麦を除く)	アブラムシ類 アワヨトウ ムギキモグリバエ		60~150ℓ/10a	収穫14日前まで		1回	散布	
	ムギアカタマバエ ヒメトビウンカ	30倍	3ℓ/10a		空中散布			
	ヒメトビウンカ	8倍	800mℓ/10a		無人航空機による散布			
	アブラムシ類							

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数		
大麦	アブラムシ類 アワヨトウ ムギキモグリバエ	1000倍	60~150ℓ/10a	収穫7日前まで	1回	散布	1回		
	ムギアカタマバエ ヒメトビウンカ	30倍	3ℓ/10a			空中散布			
	ヒメトビウンカ	8倍	800mℓ/10a			無人航空機による散布			
	アブラムシ類					散布			
小麦	アブラムシ類 アワヨトウ ムギキモグリバエ	250倍	25ℓ/10a			散布			
	アブラムシ類 アワヨトウ ムギキモグリバエ	1000倍	60~150ℓ/10a			散布			
	ムギアカタマバエ ヒメトビウンカ	30倍	3ℓ/10a			空中散布			
	ヒメトビウンカ	8倍	800mℓ/10a			無人航空機による散布			
アブラムシ類	無人航空機による散布								
とうもろこし	アワノメイガ カメムシ類 ツマジロクサヨトウ	1000倍	100~300ℓ/10a					4回以内	
りんご	アブラムシ類	1000~2000倍	200~700ℓ/10a	収穫30日前まで	3回以内	散布	3回以内		
	ナシヒメシクイ モモシクイガ ハマキムシ類 ナシグンバイ アメリカシロヒトリ	1000倍							
	クワコナカイガラムシ	1500倍							
なし（有袋栽培）	アブラムシ類	1000~2000倍		200~700ℓ/10a	収穫14日前まで		6回以内	散布	6回以内
	シンクイムシ類 ハマキムシ類 ナシグンバイ ナシホソガ ナシチビガ カメムシ類 アメリカシロヒトリ	1000倍							
	クワコナカイガラムシ	1500倍							
なし（無袋栽培）	アブラムシ類	1000~2000倍	200~700ℓ/10a	収穫21日前まで	6回以内	散布	6回以内		
	シンクイムシ類 ハマキムシ類 ナシグンバイ ナシホソガ ナシチビガ カメムシ類 アメリカシロヒトリ	1000倍							
	クワコナカイガラムシ	1500倍							

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数		
かき	ハマキムシ類 カキノヘタムシガ カキホソガ フジコナカイガラムシ オオワタコナカイガラムシ カメムシ類 イラガ類 アメリカシロヒトリ ミノガ類若齢幼虫	1000倍	200～700ℓ /10a	収穫30日前まで	3回以内	散布	3回以内 (樹幹処理は 2回以内)		
もも	アブラムシ類 モモハモグリガ ナシヒメシンクイ (心折防止)	1000～2000倍		収穫3日前まで	6回以内		散布	6回以内 (樹幹処理は 1回以内)	
	ナシヒメシンクイ モモシンクイガ ハマキムシ類 クワシロカイガラムシ カメムシ類	1000倍		成虫発生初期 但し、収穫3日 前まで					
	クビアカツヤカミキリ			収穫3日前まで					
	クワコナカイガラムシ	1500倍							
みかん	アブラムシ類	1000～2000倍		5ℓ/10a	収穫14日前まで		5回以内	無人航空機 による散布	5回以内 (樹幹処理は 1回以内)
	ハマキムシ類 サンホーゼカイガラムシ アザミウマ類 カメムシ類 カネタタキ ミカンツボミタマバエ ケシキスイ類 コアオハナムグリ フラワーバゾウムシ ミカンキジラミ コナカイガラムシ類	1000倍							
	ケシキスイ類 コアオハナムグリ アザミウマ類	10倍							
かんきつ (みかんを除く)	アブラムシ類	1000～2000倍		200～ 700ℓ/10a			3回以内	散布	3回以内 (樹幹処理は 1回以内)
	ハマキムシ類 サンホーゼカイガラムシ アザミウマ類 カメムシ類 カネタタキ ミカンツボミタマバエ ケシキスイ類 コアオハナムグリ フラワーバゾウムシ ミカンキジラミ コナカイガラムシ類	1000倍							

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数		
大粒種ぶどう	アブラムシ類 フタテンヒメヨコバイ ブドウスカシバ ブドウトリバ	1000~2000倍	200~ 700ℓ/10a	収穫21日前まで	2回以内	散布	4回以内 (収穫終了後から萌芽までは2回以内、萌芽後は2回以内)		
	ハマキムシ類 ブドウトラカミキリ キンケクチプトゾウムシ成虫	1000倍							
	クワコナカイガラムシ	1500倍							
小粒種ぶどう	アブラムシ類 フタテンヒメヨコバイ ブドウスカシバ ブドウトリバ	1000~2000倍		1000倍				収穫90日前まで	
	ハマキムシ類 ブドウトラカミキリ キンケクチプトゾウムシ成虫	1000倍							
	クワコナカイガラムシ	1500倍							
おうとう	アブラムシ類	1000~2000倍		1000倍				収穫14日前まで	2回以内 (樹幹処理及び灌注処理は合計1回以内)
	ハマキムシ類 ナシグンバイ アメリカシロヒトリ	1000倍							
うめ	アブラムシ類	1000~2000倍		1000倍				成虫発生初期 但し、収穫14日前まで	2回以内
	アメリカシロヒトリ ハマキムシ類	1000倍							
	クビアカツヤカミキリ	1000倍							
オリーブ	オリーブアナアキゾウムシ	50倍	0.3~3ℓ/樹	収穫21日前まで	3回以内	樹幹散布	3回以内		
オリーブ(葉)				収穫120日前まで					
いちょう(種子)				収穫60日前まで					
くり	モモノゴマダラノメイガ	8倍	3ℓ/10a	収穫14日前まで	4回以内	空中散布	4回以内(樹幹処理は1回以内)		
いちご	アブラムシ類	2000倍	100~300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内		
ほうれんそう	アブラムシ類 ホウレンソウケナガコナダニ	1000~2000倍		収穫21日前まで					
てんさい	テンサイトビハムシ	1000倍		3ℓ/m ²				1回	株元灌注
にら	ネダニ類	1000倍							
ねぎ	アブラムシ類	1000~2000倍	100~300ℓ/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内		
	アザミウマ類	700~1000倍							
	ネギコガ	1000倍							
ごぼう	アブラムシ類 フキノメイガ	1000~2000倍							

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数		
たまねぎ	アブラムシ類	1000～2000倍	100～300ℓ/10a	収穫21日前まで	2回以内	散布	2回以内		
	アザミウマ類	700～1000倍							
トマト	アブラムシ類 オオニジュウヤホシテントウ	2000倍		収穫前日まで	5回以内		5回以内		
なす	アブラムシ類 テントウムシダマシ類	1000～2000倍							
きゅうり メロン しろうり	アブラムシ類	1000倍		収穫3日前まで	6回以内		6回以内		
	アザミウマ類	700～1000倍							
すいか	アブラムシ類	1000～2000倍		収穫14日前まで	3回以内		3回以内		
	アザミウマ類	700～1000倍							
かぼちゃ	アブラムシ類	1000～2000倍		3ℓ/10a	収穫21日前まで		4回以内	空中散布	4回以内
	アザミウマ類	700～1000倍							
だいず	マメシンクイガ ダイズサヤタマバエ シロイチモジマダラメイガ マメヒメサヤムシガ カメムシ類	20倍	800mℓ/10a			無人航空機による散布		4回以内	
	ダイズサヤタマバエ シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤムシガ カメムシ類 ウコンノメイガ マメシンクイガ	8倍							
	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ ウコンノメイガ マメハンミョウ	1000倍							
	アブラムシ類	1000～2000倍							
豆類（種実、ただし、だいず、あずき、いんげんまめ、そらまめを除く）、豆類（未成熟、ただし、えだまめ、さやいんげん、未成熟そらまめを除く）	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ	1000倍	100～300ℓ/10a	散布	3回以内				
	アブラムシ類	1000～2000倍							
	マメシンクイガ	1000～1500倍							
未成熟そらまめ	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ	1000倍	1000～2000倍	3回以内	3回以内				
	アブラムシ類	1000～2000倍							
	マメシンクイガ	1000～1500倍							

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数		
えだまめ	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ ウコンノメイガ	1000倍	100~300ℓ /10a	収穫21日前まで	4回以内	散布	4回以内		
	アブラムシ類	1000~2000倍							
	マメシンクイガ	1000~1500倍							
いんげんまめ	シロイチモジマダラメイガ インゲンマメゾウムシ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ インゲンテントウ	1000倍	100~300ℓ /10a	収穫21日前まで	4回以内	散布	4回以内		
	アブラムシ類	1000~2000倍							
	マメシンクイガ	1000~1500倍							
さやいんげん	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ インゲンテントウ	1000倍	100~300ℓ /10a	収穫21日前まで	4回以内	散布	4回以内		
	アブラムシ類	1000~2000倍							
	マメシンクイガ	1000~1500倍							
あずき	アズキノメイガ シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 ナミハダニ マメヒメサヤムシガ マメホソクチゾウムシ	1000倍	100~300ℓ /10a	収穫21日前まで	4回以内	散布	4回以内		
	アブラムシ類	250倍						25ℓ/10a	
	マメシンクイガ	1000~1500倍							
そらまめ	アブラムシ類	1000倍	25ℓ/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内		
ばれいしょ	アブラムシ類 テントウムシダマシ類	250倍			6回以内		6回以内		
こんにゃく	アブラムシ類	1000倍	100~300ℓ /10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内		
かんしょ	イモコガ アブラムシ類 ヨツモンカメノコハムシ			1000倍	100~300ℓ /10a		収穫7日前まで	5回以内	5回以内
うど	アブラムシ類 センノカミキリ ヒメシロコブゾウムシ ウドノメイガ ヨトウムシ			1000倍	100~300ℓ /10a		根株養成期 但し収穫150 日前まで	4回以内	4回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数
モロヘイヤ	マメコガネ アザミウマ類 アブラムシ類 カメムシ類	1000倍	100~300ℓ /10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
わらび	ナガゼンマイハバチ			収穫90日前まで			
らっきょう	ネダニ類	1000~2000倍	—	植付前	1回	30分間 種球浸漬	3回以内(植付前は1回以内、植付後は2回以内)
	アザミウマ類	1000倍	100~300ℓ /10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	
	アザミウマ類 ネギハモグリバエ	8倍	1.6ℓ/10a			無人航空機による散布	
せり	アブラムシ類	2000倍	100~300ℓ /10a	親株養成期 但し収穫45日前まで	2回以内	散布	2回以内
たらのき	センノカミキリ幼虫 ヒメシロコブゾウムシ	100倍	150~300ℓ /10a	3~5月株養成期		樹幹散布	
茶	コカクモンハマキ チャノホソガ	700~1000倍	200~400ℓ /10a	摘採21日前まで	1回		1回
	ミノガ類	1000倍					
まめ科牧草	ヨコバイ類 アブラムシ類 ウンカ類 ウリハムシモドキ ゾウムシ類	1000~2000倍	100~300ℓ /10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
	ムギダニ	1000倍					
いね科牧草	ヨコバイ類 アブラムシ類 ウンカ類 ウリハムシモドキ ゾウムシ類	1000~2000倍		2回以内	2回以内		2回以内
	ムギダニ アワヨトウ	1000倍					
飼料用とうもろこし	アブラムシ類	2000倍		収穫30日前まで	3回以内		3回以内
セネガ		1000倍		収穫14日前まで			
花き類・観葉植物		アオムシ バッタ類 ハマキムシ類 アザミウマ類		1000倍			
ばら	アブラムシ類	1000~2000倍		—	6回以内		6回以内
	フラーバラゾウムシ	1000倍					
きく	アブラムシ類	1000~2000倍		—	6回以内		6回以内
	フラーバラゾウムシ カメムシ類 ヨトウムシ類	1000倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数
カーネーション	アザミウマ類 クロウリハムシ	1000倍	100~300ℓ /10a	—	6回以内	散布	6回以内
宿根かすみそう	ハモグリバエ類			発生初期			
りんどう	ヒラズハナアザミウマ			—			
アスター	ウリハムシ			—			
ソリダゴ	カメムシ類			—			
スターチス	コガネムシ類			—			
シネリア	シンクイムシ類			—			
斑入りアマドコロ	コウモリガ			—			
ききょう	ヨトウムシ			—			
樹木類	アメリカシロヒトリ	500~1000倍	200~700ℓ /10a	—	1回	30分間 根部浸漬	6回以内
	フラーバラゾウムシ アブラムシ類 グンバイムシ類	1000倍					
	オオハリセンチュウ	500倍	—				
つつじ類	グンバイムシ類 ハマキムシ類	1000倍	200~700ℓ /10a	—	6回以内	散布	1回
せんりょう	アザミウマ類 カメムシ類			—			
こでまり	カイガラムシ類			—			
しきみ	クスアナアキゾウムシ			—			
にしきぎ	ケムシ類			—			
しゃりんばい だいおうしょう	シンクイムシ類			—			
さかき	ハマキムシ類 サカキブチヒメヨコバイ			—			
さくら	クビアカツヤカミキリ			成虫発生初期			
さんごじゅ	ワタノメイガ			—			
げっきつ	ミカンキジラミ			—			
たばこ	ヨトウムシ			25~180ℓ/10a			
しちとうい	イネクロカメムシ	60~150ℓ/10a	—	2回以内	2回以内		
芝	シバツトガ スジキリヨトウ	0.3~2ℓ/m ²	発生初期	6回以内	6回以内		
	コガネムシ類幼虫	3ℓ/m ²	—				
	シバオサゾウムシ		幼虫発生期				
桑	クワゾウムシ成虫	500~750倍	100~300ℓ /10a	成虫発生期	—	—	

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農業の総使用回数
水田作物、畑作物 (休耕田)	ヨシ、オギ、ススキ、セイタカ アワダチソウ等の多年生雑草が 優占している休耕田	カメムシ類	1000倍	60~150ℓ /10a	4回以内	散布	4回以内

製品写真



最新の登録内容はこちら

